

助太刀は10月から、職人への教育サービスを提供する「助太刀学院」を開校し、新たに教育事業に参入する。施工管理など職人の新たなキャリアパスの実現とともに、他業界からの入職者を増加させ建設業界の人手不足解消を目指す。

業界の慢性的な人材不足に加え、4

新たなキャリアパス実現



「助太刀学院」開校

月からの残業時間の上限規制導入を受けて、大手ゼネコンなどは社員や協会の職人などを独自に育成支援している。ただ中堅・中小企業は社員や協会の職員、施工管理者を育成する体制が十分に整っておらず、「助太刀で育成サポートをしてほしい」などの要望が多く寄せられていたという。

助太刀学院では、特別教育のうち5科目の講習からスタートする。「フルハーネス型墜落制止用器具を用いて行う作業に関わる特別教育」「玉掛け特別教育」「高所作業車運転特別教育」のほか、残りの2科目は現時点では未定で、今後ユーザーの要望が高いものを選択する。2025年度からは特別教育20科目や施工管理受験対策講座の開設を予定する。隙間時間で受講可能なeラーニング講座も提供する計画だ。

将来的にはデジタル資格証を用いて、建設業界のマッチングプラットフォーム「助太刀」アプリと連携することで、その後の新たな取引先探しや就職・転職支援まで一貫型のサポートも目指す。

